

**12**

[信州大]

次の問いに答えよ。

(1)  $a > 1$  とする。不等式  $(1+t)^a \leq K(1+t^a)$  がすべての  $t \geq 0$  に対して成り立つような実数  $K$  の最小値を求めよ。

(2)  $\int_0^\pi (1 + \sqrt[5]{1 + \sin x})^{10} dx < 6080$  を示せ。ただし、 $\pi < 3.15$  であることを用いてよい。

13

[大阪大]

以下の問いに答えよ。ただし、 $\log$  は自然対数、 $e$  はその底とする。

- (1)  $b$  を実数とする。関数  $f(x) = \int_x^b e^{-\frac{t^2}{2}} dt - \frac{x}{x^2+1} e^{-\frac{x^2}{2}}$  は単調に減少することを示せ。

- (2)  $a \leq b$  を満たす正の実数  $a, b$  に対し、不等式

$$\frac{a}{a^2+1} e^{-\frac{a^2}{2}} - \frac{b}{b^2+1} e^{-\frac{b^2}{2}} \leq \int_a^b e^{-\frac{t^2}{2}} dt \leq e^{-\frac{a^2}{2}} (b-a)$$

が成り立つことを示せ。

- (3) 数列  $\{I_n\}$  を次のように定める。  $I_n = \int_1^2 e^{-\frac{nt^2}{2}} dt$  ( $n=1, 2, 3, \dots$ )

このとき極限  $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{n} \log I_n$  を求めよ。ただし、 $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{n} \log(n+1) = 0$  を用いてもよい。

14

[広島大]

関数  $f(x)$  は実数全体で連続で、すべての実数  $x$  に対して

$$f(x) = (1-x)\cos x + x\sin x - \int_0^x e^{x-t} f(t) dt$$

を満たすとする。ただし、 $e$  は自然対数の底である。次の問いに答えよ。

- (1)  $f(0)$  の値を求めよ。また、 $f'(x) = 2(x-1)\cos x$  が成り立つことを示せ。
- (2)  $f(x)$  を求めよ。
- (3) 方程式  $f(x) = 0$  は、 $0 < x < \pi$  の範囲でただ 1 つの解をもつことを示せ。
- (4) (3) のただ 1 つの解を  $\alpha$  とする。曲線  $y = f(x)$  ( $0 \leq x \leq \alpha$ )、 $x$  軸および  $y$  軸によって囲まれる部分の面積を  $S_1$  とし、曲線  $y = f(x)$  ( $\alpha \leq x \leq \pi$ )、 $x$  軸および直線  $x = \pi$  によって囲まれる部分の面積を  $S_2$  とする。 $S_1$  と  $S_2$  の大小を判定せよ。

15

[東京工大]

次の等式が  $1 \leq x \leq 2$  で成り立つような関数  $f(x)$  と定数  $A, B$  を求めよ。

$$\int_{\frac{1}{x}}^{\frac{2}{x}} |\log y| f(xy) dy = 3x(\log x - 1) + A + \frac{B}{x}$$

ただし、 $f(x)$  は  $1 \leq x \leq 2$  に対して定義される連続関数とする。

[東北大]

**16**

(1) 次の等式が成り立つことを示せ。

$$\int_{-1}^1 \frac{\sin^2(\pi x)}{1+e^x} dx = \int_0^1 \sin^2(\pi x) dx = \frac{1}{2}$$

(2) 次の等式を満たす関数  $f(x)$  を求めよ。

$$(1+e^x)f(x) = \sin^2(\pi x) + \int_{-1}^1 (e^x - e^t + 1)f(t) dt$$

12

[信州大]

(1) すべての  $t \geq 0$  に対して  $(1+t)^a \leq K(1+t^a) \cdots \cdots \textcircled{1}$  から,  $K \geq \frac{(1+t)^a}{1+t^a}$  として,

$f(t) = \frac{(1+t)^a}{1+t^a}$  とおくと,  $\textcircled{1}$  は  $K \geq f(t)$  となり,

$$f'(t) = \frac{a(1+t)^{a-1}(1+t^a) - (1+t)^a \cdot at^{a-1}}{(1+t^a)^2} = \frac{a(1+t)^{a-1}(1-t^{a-1})}{(1+t^a)^2}$$

すると,  $a > 1$  から  $t \geq 0$  における  $f(t)$  の増減は右表のようになり, 最大値は  $2^{a-1}$  である。

$t$	0	⋯	1	⋯
$f'(t)$		+	0	-
$f(t)$	1	↗	$2^{a-1}$	↘

これより, すべての  $t \geq 0$  に対して  $\textcircled{1}$  を満たす実数  $K$  の最小値は,  $2^{a-1}$  となる。

(2) (1) から,  $a > 1$  のとき, すべての  $t \geq 0$  に対して  $(1+t)^a \leq 2^{a-1}(1+t^a)$  が成り立ち, ここで  $t = \sqrt[5]{1 + \sin x} \geq 0$ ,  $a = 10$  とおくと,

$$(1 + \sqrt[5]{1 + \sin x})^{10} \leq 2^9 \{1 + (1 + \sin x)^2\} = 2^9 (2 + 2 \sin x + \sin^2 x)$$

すると,  $\int_0^\pi (1 + \sqrt[5]{1 + \sin x})^{10} dx \leq 2^9 \int_0^\pi (2 + 2 \sin x + \sin^2 x) dx \cdots \cdots \textcircled{2}$  となり,

$$\begin{aligned} \int_0^\pi (2 + 2 \sin x + \sin^2 x) dx &= \frac{1}{2} \int_0^\pi (4 + 4 \sin x + 1 - \cos 2x) dx \\ &= \frac{1}{2} (5\pi + 4 \cdot 2 - 0) = \frac{1}{2} (5\pi + 8) \cdots \cdots \textcircled{3} \end{aligned}$$

$\textcircled{2}\textcircled{3}$  より,  $\pi < 3.15$  を用いると,

$$\int_0^\pi (1 + \sqrt[5]{1 + \sin x})^{10} dx \leq 2^8 (5\pi + 8) < 2^8 (5 \times 3.15 + 8) = 6080$$

### [解説]

定積分と不等式の標準的な問題です。(1)の誘導が(2)にストレートに繋がっています。

13

[大阪大]

(1)  $b$  を実数とするとき、 $f(x) = \int_x^b e^{-\frac{t^2}{2}} dt - \frac{x}{x^2+1} e^{-\frac{x^2}{2}}$  に対し、

$$\begin{aligned} f'(x) &= -e^{-\frac{x^2}{2}} - \frac{(x^2+1) - x \cdot 2x}{(x^2+1)^2} e^{-\frac{x^2}{2}} - \frac{x}{x^2+1} \cdot (-x) e^{-\frac{x^2}{2}} \\ &= \frac{-(x^2+1)^2 - (-x^2+1) + x^2(x^2+1)}{(x^2+1)^2} e^{-\frac{x^2}{2}} = \frac{-2}{(x^2+1)^2} e^{-\frac{x^2}{2}} \end{aligned}$$

これより、 $f'(x) < 0$  となるので、 $f(x)$  は単調に減少する。

(2)  $0 < a \leq b$  のとき、(1) から  $f(a) \geq f(b)$  となり、

$$\int_a^b e^{-\frac{t^2}{2}} dt - \frac{a}{a^2+1} e^{-\frac{a^2}{2}} \geq \int_b^b e^{-\frac{t^2}{2}} dt - \frac{b}{b^2+1} e^{-\frac{b^2}{2}}$$

$$\text{よって、} \frac{a}{a^2+1} e^{-\frac{a^2}{2}} - \frac{b}{b^2+1} e^{-\frac{b^2}{2}} \leq \int_a^b e^{-\frac{t^2}{2}} dt \cdots \cdots \textcircled{1}$$

また、 $g(t) = e^{-\frac{t^2}{2}}$  とおくと、 $g(t)$  は  $t > 0$  で単調に減少し、 $0 < a \leq t \leq b$  において、 $e^{-\frac{t^2}{2}} \leq e^{-\frac{a^2}{2}}$  となるので、

$$\int_a^b e^{-\frac{t^2}{2}} dt \leq \int_a^b e^{-\frac{a^2}{2}} dt = e^{-\frac{a^2}{2}} (b-a) \cdots \cdots \textcircled{2}$$

$$\textcircled{1}\textcircled{2} \text{より、} \frac{a}{a^2+1} e^{-\frac{a^2}{2}} - \frac{b}{b^2+1} e^{-\frac{b^2}{2}} \leq \int_a^b e^{-\frac{t^2}{2}} dt \leq e^{-\frac{a^2}{2}} (b-a) \cdots \cdots \textcircled{3}$$

(3)  $I_n = \int_1^2 e^{-\frac{nt^2}{2}} dt$  に対し、 $s = \sqrt{n}t$  とおくと、 $ds = \sqrt{n} dt$  となり、

$$I_n = \int_{\sqrt{n}}^{2\sqrt{n}} e^{-\frac{s^2}{2}} \cdot \frac{1}{\sqrt{n}} ds = \frac{1}{\sqrt{n}} \int_{\sqrt{n}}^{2\sqrt{n}} e^{-\frac{s^2}{2}} ds$$

すると、 $\textcircled{3}$  から、 $\frac{\sqrt{n}}{n+1} e^{-\frac{n}{2}} - \frac{2\sqrt{n}}{4n+1} e^{-\frac{4n}{2}} \leq \sqrt{n} I_n \leq e^{-\frac{n}{2}} (2\sqrt{n} - \sqrt{n})$  となり、

$$\frac{1}{n+1} e^{-\frac{n}{2}} - \frac{2}{4n+1} e^{-2n} \leq I_n \leq e^{-\frac{n}{2}} \cdots \cdots \textcircled{4}$$

ここで、 $\frac{1}{n+1} e^{-\frac{n}{2}} - \frac{2}{4n+1} e^{-2n} = \frac{1}{n+1} \left(1 - \frac{2n+2}{4n+1} e^{-\frac{3n}{2}}\right) e^{-\frac{n}{2}}$  なので、 $\textcircled{4}$  から、

$$-\log(n+1) + \log\left(1 - \frac{2n+2}{4n+1} e^{-\frac{3n}{2}}\right) - \frac{n}{2} \leq \log I_n \leq -\frac{n}{2}$$

$$-\frac{1}{n} \log(n+1) + \frac{1}{n} \log\left(1 - \frac{2n+2}{4n+1} e^{-\frac{3n}{2}}\right) - \frac{1}{2} \leq \frac{1}{n} \log I_n \leq -\frac{1}{2} \cdots \cdots \textcircled{5}$$

そこで、 $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{n} \log(n+1) = 0$ 、 $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{n} \log\left(1 - \frac{2n+2}{4n+1} e^{-\frac{3n}{2}}\right) = 0$  なので、 $\textcircled{5}$  から、

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{n} \log I_n = -\frac{1}{2}$$

**[解説]**

定積分と不等式および極限に関する標準的な問題です。(3)は、(2)の結果を利用するために、冒頭での置換がポイントになっています。なお、⑤式への変形は、問題文のコメントからヒントを得ています。



14

[広島大]

- (1) 連続関数  $f(x)$  は、 $f(x) = (1-x)\cos x + x\sin x - \int_0^x e^{-t} f(t) dt$  を満たし、

$$f(x) = (1-x)\cos x + x\sin x - e^x \int_0^x e^{-t} f(t) dt \cdots \cdots \textcircled{1}$$

すると、 $f(0) = \cos 0 = 1$  となり、 $\textcircled{1}$ の両辺を微分すると、

$$\begin{aligned} f'(x) &= -\cos x - (1-x)\sin x + \sin x + x\cos x - e^x \int_0^x e^{-t} f(t) dt - e^x e^{-x} f(x) \\ &= (x-1)\cos x + x\sin x - e^x \int_0^x e^{-t} f(t) dt - f(x) \cdots \cdots \textcircled{2} \end{aligned}$$

$\textcircled{1}$ より、 $f(x) + e^x \int_0^x e^{-t} f(t) dt = (1-x)\cos x + x\sin x$  なので、 $\textcircled{2}$ に代入して、

$$f'(x) = (x-1)\cos x + x\sin x - (1-x)\cos x - x\sin x = 2(x-1)\cos x \cdots \cdots \textcircled{3}$$

- (2)  $\textcircled{3}$ より、 $f(x) = \int 2(x-1)\cos x dx$  となり、 $C$ を定数として、

$$f(x) = 2(x-1)\sin x - 2 \int \sin x dx = 2(x-1)\sin x + 2\cos x + C$$

ここで、 $f(0) = 1$  から、 $2 + C = 1$  すなわち  $C = -1$  となり、

$$f(x) = 2(x-1)\sin x + 2\cos x - 1$$

- (3)  $\textcircled{3}$ より、 $0 \leq x \leq \pi$  での  $f(x)$

の増減は右表のようになる。

ここで、 $1 < \frac{\pi}{3}$  に注意すると、

$$\cos 1 > \cos \frac{\pi}{3} = \frac{1}{2}$$

すると、 $f(1) = 2\cos 1 - 1 > 2 \cdot \frac{1}{2} - 1 = 0$  となり、方程式  $f(x) = 0$  は、 $0 < x < \pi$  の

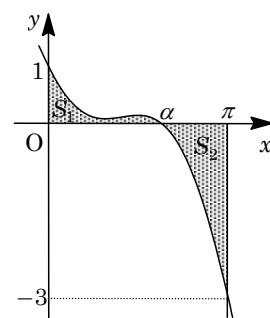
範囲でただ1つの解をもつ。

- (4)  $f(\alpha) = 0$  として、右図の網点部の面積を  $S_1$ 、 $S_2$  とすると、

$$S_1 = \int_0^\alpha f(x) dx, \quad S_2 = -\int_\alpha^\pi f(x) dx \text{ となり、}$$

$$\begin{aligned} S_1 - S_2 &= \int_0^\alpha f(x) dx + \int_\alpha^\pi f(x) dx = \int_0^\pi f(x) dx \\ &= \int_0^\pi \{2(x-1)\sin x + 2\cos x - 1\} dx \\ &= -2[(x-1)\cos x]_0^\pi + 2 \int_0^\pi \cos x dx + 0 - \pi \\ &= 2(\pi-1) - 2 + 0 - \pi = \pi - 4 < 0 \end{aligned}$$

よって、 $S_1 < S_2$  である。



**[解説]**

微積分の総合問題です。微分型の積分方程式を解くことから始め、面積計算へと繋ぐ構図になっています。いずれも、頻出題です。

15

[東京工大]

$$1 \leq x \leq 2 \text{ のとき, } \int_{\frac{1}{x}}^{\frac{2}{x}} |\log y| f(xy) dy = 3x(\log x - 1) + A + \frac{B}{x} \dots\dots\dots ①$$

ここで,  $xy = t$  とおくと  $x dy = dt$  となり,  $y = \frac{1}{x} \rightarrow \frac{2}{x}$  は  $t = 1 \rightarrow 2$  に対応し,

$$\begin{aligned} \int_{\frac{1}{x}}^{\frac{2}{x}} |\log y| f(xy) dy &= \int_1^2 \left| \log \frac{t}{x} \right| f(t) \cdot \frac{1}{x} dt = \frac{1}{x} \int_1^2 |\log t - \log x| f(t) dt \\ &= -\frac{1}{x} \int_1^x (\log t - \log x) f(t) dt + \frac{1}{x} \int_x^2 (\log t - \log x) f(t) dt \\ &= -\frac{1}{x} \int_1^x (\log t) f(t) dt + \frac{\log x}{x} \int_1^x f(t) dt + \frac{1}{x} \int_x^2 (\log t) f(t) dt - \frac{\log x}{x} \int_x^2 f(t) dt \end{aligned}$$

①の両辺を  $x$  倍すると,  $x \int_{\frac{1}{x}}^{\frac{2}{x}} |\log y| f(xy) dy = 3x^2(\log x - 1) + Ax + B$  となり,

$$\begin{aligned} &-\int_1^x (\log t) f(t) dt + (\log x) \int_1^x f(t) dt + \int_x^2 (\log t) f(t) dt - (\log x) \int_x^2 f(t) dt \\ &= 3x^2(\log x - 1) + Ax + B \dots\dots\dots ② \end{aligned}$$

ここで, ②の左辺を  $F(x)$ , 右辺を  $G(x)$  とおくと,

$$\begin{aligned} F'(x) &= -(\log x) f(x) + \frac{1}{x} \int_1^x f(t) dt + (\log x) f(x) - (\log x) f(x) \\ &\quad - \frac{1}{x} \int_x^2 f(t) dt + (\log x) f(x) \\ &= \frac{1}{x} \int_1^x f(t) dt - \frac{1}{x} \int_x^2 f(t) dt \end{aligned}$$

$$G'(x) = 6x(\log x - 1) + 3x^2 \cdot \frac{1}{x} + A = 6x \log x - 3x + A$$

すると,  $\frac{1}{x} \int_1^x f(t) dt - \frac{1}{x} \int_x^2 f(t) dt = 6x \log x - 3x + A$  から, 両辺を  $x$  倍すると,

$$\int_1^x f(t) dt - \int_x^2 f(t) dt = 6x^2 \log x - 3x^2 + Ax \dots\dots\dots ③$$

さらに, ③の両辺を  $x$  で微分して,

$$f(x) + f(x) = 12x \log x + 6x^2 \cdot \frac{1}{x} - 6x + A$$

$$f(x) = 6x \log x + \frac{A}{2} \dots\dots\dots ④$$

さて, ②に  $x = 1$  を代入すると,  $\int_1^2 (\log t) f(t) dt = -3 + A + B \dots\dots\dots ⑤$

また, ③に  $x = 1$  を代入すると,  $-\int_1^2 f(t) dt = -3 + A$

$$3 - A = \int_1^2 f(t) dt \dots\dots\dots ⑥$$

④を⑥に代入して,

$$\begin{aligned} 3 - A &= \int_1^2 \left( 6t \log t + \frac{A}{2} \right) dt = [3t^2 \log t]_1^2 - \int_1^2 3t dt + \frac{A}{2}(2-1) \\ &= 12 \log 2 - \frac{3}{2}(2^2 - 1^2) + \frac{A}{2} = 12 \log 2 - \frac{9}{2} + \frac{A}{2} \end{aligned}$$

よって,  $\frac{3}{2}A = \frac{15}{2} - 12 \log 2$  より,  $A = 5 - 8 \log 2$  となり, ④から,

$$f(x) = 6x \log x + \frac{5}{2} - 4 \log 2$$

⑤に代入して,  $\int_1^2 (\log t) f(t) dt = -3 + (5 - 8 \log 2) + B$  となり,

$$\begin{aligned} B &= \int_1^2 (\log t) \left( 6t \log t + \frac{5}{2} - 4 \log 2 \right) dt - 2 + 8 \log 2 \\ &= 6 \int_1^2 t (\log t)^2 dt + \left( \frac{5}{2} - 4 \log 2 \right) \int_1^2 \log t dt - 2 + 8 \log 2 \end{aligned}$$

ここで,  $\int_1^2 \log t dt = [t \log t - t]_1^2 = 2 \log 2 - 1$

$$\begin{aligned} \int_1^2 t (\log t)^2 dt &= \left[ \frac{t^2}{2} (\log t)^2 \right]_1^2 - \int_1^2 \frac{t^2}{2} \cdot 2 (\log t) \cdot \frac{1}{t} dt \\ &= 2 (\log 2)^2 - \int_1^2 t \log t dt = 2 (\log 2)^2 - 2 \log 2 + \frac{3}{4} \end{aligned}$$

以上, まとめると,

$$\begin{aligned} B &= 6 \left\{ 2 (\log 2)^2 - 2 \log 2 + \frac{3}{4} \right\} + \left( \frac{5}{2} - 4 \log 2 \right) (2 \log 2 - 1) - 2 + 8 \log 2 \\ &= 12 (\log 2)^2 - 12 \log 2 + \frac{9}{2} - 8 (\log 2)^2 + 9 \log 2 - \frac{5}{2} - 2 + 8 \log 2 \\ &= 4 (\log 2)^2 + 5 \log 2 \end{aligned}$$

### [解説]

いわゆる微分型と呼ばれるタイプの積分方程式です。解の構図は、微分して初期条件を求めることを2回くり返すという定型的なものです。それ以外のポイントとしては、分数関数は微分すると一般的に複雑になるので、その前に両辺を  $x$  倍するというぐらいです。それでも、計算量は半端ではありませんが。

16

[東北大]

$$(1) I = \int_{-1}^1 \frac{\sin^2(\pi x)}{1+e^x} dx \text{ とおくと, } I = \int_{-1}^0 \frac{\sin^2(\pi x)}{1+e^x} dx + \int_0^1 \frac{\sin^2(\pi x)}{1+e^x} dx$$

ここで,  $x = -t$  とおくと,  $dx = -dt$  となり,

$$\int_{-1}^0 \frac{\sin^2(\pi x)}{1+e^x} dx = -\int_1^0 \frac{\sin^2(-\pi t)}{1+e^{-t}} dt = \int_0^1 \frac{e^t \sin^2(\pi t)}{e^t + 1} dt$$

すると,  $\int_0^1 \frac{e^t \sin^2(\pi t)}{e^t + 1} dt = \int_0^1 \frac{e^x \sin^2(\pi x)}{1+e^x} dx$  なるので,

$$\begin{aligned} I &= \int_0^1 \left\{ \frac{e^x \sin^2(\pi x)}{1+e^x} + \frac{\sin^2(\pi x)}{1+e^x} \right\} dx = \int_0^1 \sin^2(\pi x) dx \\ &= \frac{1}{2} \int_0^1 \{1 - \cos(2\pi x)\} dx = \frac{1}{2} \left[ x - \frac{\sin(2\pi x)}{2\pi} \right]_0^1 = \frac{1}{2} \end{aligned}$$

$$(2) \text{ 条件より, } (1+e^x)f(x) = \sin^2(\pi x) + \int_{-1}^1 (e^x - e^t + 1)f(t) dt$$

$$(1+e^x)f(x) = \sin^2(\pi x) + (e^x + 1) \int_{-1}^1 f(t) dt - \int_{-1}^1 e^t f(t) dt$$

ここで,  $a = \int_{-1}^1 f(t) dt \cdots \cdots \textcircled{1}$ ,  $b = \int_{-1}^1 e^t f(t) dt \cdots \cdots \textcircled{2}$  とおくと,

$$(1+e^x)f(x) = \sin^2(\pi x) + a(e^x + 1) - b$$

$$f(x) = \frac{\sin^2(\pi x)}{1+e^x} + a - \frac{b}{1+e^x} \cdots \cdots \textcircled{3}$$

$\textcircled{1}\textcircled{3}$ より,  $a = \int_{-1}^1 \left\{ \frac{\sin^2(\pi t)}{1+e^t} + a - \frac{b}{1+e^t} \right\} dt = \frac{1}{2} + 2a - b \int_{-1}^1 \frac{1}{1+e^t} dt$  となり,

$$a = -\frac{1}{2} + b \int_{-1}^1 \frac{1}{1+e^t} dt$$

ここで,  $J = \int_{-1}^1 \frac{1}{1+e^t} dt$  として,  $t = -s$  とおくと  $dt = -ds$  となり,

$$J = -\int_1^{-1} \frac{1}{1+e^{-s}} ds = \int_{-1}^1 \frac{e^s}{e^s + 1} ds = \int_{-1}^1 \frac{e^t}{1+e^t} dt$$

これより,  $J + J = \int_{-1}^1 \left\{ \frac{1}{1+e^t} + \frac{e^t}{1+e^t} \right\} dt = \int_{-1}^1 dt = 2$  となり,  $J = 1$  なるので,

$$a = -\frac{1}{2} + b \cdots \cdots \textcircled{4}$$

$\textcircled{2}\textcircled{3}$ より,  $b = \int_{-1}^1 \left\{ \frac{e^t \sin^2(\pi t)}{1+e^t} + ae^t - \frac{be^t}{1+e^t} \right\} dt$  となり,  $\int_{-1}^1 e^t dt = e - \frac{1}{e}$

$$\int_{-1}^1 \frac{e^t}{1+e^t} dt = [\log(1+e^t)]_{-1}^1 = \log \frac{1+e}{1+e^{-1}} = \log e = 1$$

$$\int_{-1}^1 \frac{e^t \sin^2(\pi t)}{1+e^t} dt = \int_{-1}^1 \left\{ \sin^2(\pi t) - \frac{\sin^2(\pi t)}{1+e^t} \right\} dt = 2 \cdot \frac{1}{2} - \frac{1}{2} = \frac{1}{2}$$

よって、 $b = \frac{1}{2} + (e - \frac{1}{e})a - b$  から、 $b = \frac{1}{4} + \frac{e^2 - 1}{2e}a \dots\dots\dots$ ⑤

④⑤より、 $a = -\frac{1}{2} + \frac{1}{4} + \frac{e^2 - 1}{2e}a$  となり、 $\frac{e^2 - 2e - 1}{2e}a = \frac{1}{4}$  となり、

$$a = \frac{e}{2(e^2 - 2e - 1)}, \quad b = \frac{e}{2(e^2 - 2e - 1)} + \frac{1}{2} = \frac{e^2 - e - 1}{2(e^2 - 2e - 1)}$$

以上より、 $f(x) = \frac{\sin^2(\pi x)}{1 + e^x} - \frac{e^2 - e - 1}{2(e^2 - 2e - 1)} \cdot \frac{1}{1 + e^x} + \frac{e}{2(e^2 - 2e - 1)}$  である。

### [解説]

積分方程式の問題です。置換え型と呼ばれるタイプの典型題ですが、ただ計算量は中途半端ではありません。(1)の誘導も含めてですが。